

## 第3期千歳市商業振興プラン 第1回策定懇話会議事概要

開催日時：令和2年8月7日（金）14：00～17：00

開催場所：千歳市役所 議会棟2階大会議室

出席者

【審議会委員】9名 【事務局】9名

### 議事次第

#### 1 開 会

#### 2 委員就任依頼状交付式

- (1) 委員就任依頼状交付
- (2) 副市長 挨拶

#### 3 懇話会

- (1) 懇話会委員等 自己紹介
- (2) 懇話会の役割等について
- (3) 会長、副会長の選任について
- (4) 現商業振興プランの概要について
- (5) 千歳市の商業について
- (6) 今後の懇話会の進め方について
- (7) 商業に関する市民アンケートの実施について
- (8) その他

#### 4 閉 会

## 議事概要

### 1 開 会

#### 2 委員就任依頼状交付式

##### (1) 委員就任依頼状交付

##### (2) 副市長 挨拶

商業振興プランの策定について幅広いご意見をいただきプランについて反映させていただきたい。少子高齢化、新型コロナウイルスの影響による生活スタイルの変化に伴い、消費スタイルがインターネットなどでの商品の購入になり、商業を取り巻く環境の変化が著しい。そこで、観光客、合宿誘致など中心市街地のより一層の活性化が課題とされる。ウィズコロナという観点に基づき、現況の解決方法を模索して参りたい。

### 3 懇話会

#### (1) 懇話会委員等 自己紹介

#### (2) 懇話会の役割等について

- ・「第3期千歳市商業振興プラン策定懇話会設置要綱」に基づき説明。
- ・懇話会は公開とする。
- ・懇話会の記録は内容の概要を記録する。

#### (3) 会長、副会長の選任について

- ・会長、副会長については、事務局一任とされ、事務局案「会長高田委員、副会長藤本委員」が可決された。
- ・会長挨拶

#### (4) 現商業振興プランの概要について

- ・策定の背景、平成23年から以後5年間第1期の商業振興プランによって様々な取り組みを行ってきた。技術革新や少子高齢化による社会の変化に伴い、平成28年度から現行のプランを策定した。

#### ■第2期千歳市商業振興プラン 概要について（資料に基づき説明）

- ・本プランは中心市街地を市域全体において、商業者一人ひとりが持っている活力を連動させ、行政や関係機関も商業者の活動を支援し、市民や観光客等に対する商業施設の新たな利用機会を提供するとともに、商業機能の充実や想像を図り、目まぐるしく変化する商業環境に対応していくことを目的としている。
- ・基本目標は以下の4点
  - 1 個店の魅力向上
  - 2 商業者の連携づくり
  - 3 地域特性を活かした商店街づくり
  - 4 中心市街地としてのにぎわい形成

## (5) 千歳市の商業について

### ■千歳市の商業の変遷（資料に基づき説明）

- ・千歳市の商業は、昭和 26 年米軍が進駐し、ここを対象とした商品の入り込みにより商業が開始した。
- ・その後、昭和 27 年保安隊千歳駐屯地の開庁、昭和 38 年千歳空港ターミナルビル供用開始、昭和 39 年千歳市第 1 市営工業団地の造成など、基地・空港・工業のまちとしての発展を遂げた。
- ・また、平成 3 年の大規模小売店舗法改正により各地で大規模なショッピングセンターの進出が進むこととなった。
- ・平成 10 年以降は、大店立地法の施行、公的機能の移転、大規模商業施設の新設により現在に至っている。

### ■千歳市の商業環境・中心市街地の現状と課題（資料に基づき説明）

#### 1) 全国的な商業環境

- ・ネット販売の進展と大手スーパーやコンビニ出店攻勢、製造販売も大手スーパーが展開している。
- ・モノ消費からコト消費とシェアリングエコノミーによるモノを購入しない時代に変化した。

#### 2) 千歳市の商業環境・中心市街地の現状と課題

##### ○現状

- ・人口の増加
- ・卸売業、小売業が千歳市の雇用や経済を牽引
- ・転入者の増加により単身者向けのマンション・賃貸住宅の増加
- ・インバウンドをターゲットとしたホテルが増加

##### ○課題

- ・苦戦している千歳市の商店街
- ・にぎわい感と中心性が弱くまちの顔として魅力が薄らぐ中心市街地
- ・人材の不足

#### 3) 商業振興の基本方針（案）

##### ○商業の進行

- ・大きな変化に対応したチャレンジする商業
- ・チャレンジできる環境づくり
- ・交流と連携から想像する新たな商いの創出
- ・ターゲットに合わせた情報発信の推進

##### ○中心市街地・商店街の活性化

- ・多機能化で市民が集うまちづくり
- ・発見とワクワク感のあるコト消費型の中心市街地づくり
- ・歩いて楽しいまちづくり

##### ○支援・推進体制

- ・エリアマネジメント組織の構築の検討
- ・新たな商業への支援
- ・次回の懇話会では現プランの進捗状況と新たなプランの骨子を提案する。

## ■意見交換

(事務局)

- ・商業振興の基本方針（案）を提案した。
- ・中心市街地というよりも市域全体のご意見、お考えをいただき検討していきたい。

(委員)

- ・買い物の仕方の変化に合わせてネットでの販売や展示会で商品を販売するという形態を行っている商業者もいる。
- ・コロナウイルスの影響もあり、対面型から非対面型の商売が傾向として見える。

(委員)

- ・千歳中心市街地は以前のにぎわっている時代の雰囲気が感じられない。
- ・商店街は飲食店の店舗が多く占めており、昼間は静かで夜はにぎやかである。
- ・これからの店舗展開の可能性についての懸念がある。

(委員)

- ・千歳市は、まちの顔とか、歩いて楽しい雰囲気がないところが課題である。
- ・店は昼夜問わず空いているので誘客の工夫をしなければならない。
- ・千歳市の商業は新千歳空港で販売している店舗や支笏湖の店舗などその幅が広いことから、そうした方とも意見交換を行い、今後の千歳の商業について検討することも必要だと考える。

(委員)

- ・市内の店舗の小売業の形態が大変なスピードで変化している。
- ・千歳地域だけの視点ではなく、北海道として、全国として、などの視点で考えることが必要である。また、インターネットが普及した環境下ではどのような商業を行うことが最善かなどを考え、千歳市としてどのような商業の将来像を設定していくのかを検討することが必要である。
- ・地域に活力があるためにはどうすればよいのか考えていきたい。

(委員)

- ・ニューサンロードはコロナウイルスの影響で大打撃を受けている。
- ・中心商店街は打撃だが、市内の一部では賑わいがあると聞いているので、この違いは何かという特徴を分析することも必要なのではないかと。
- ・千歳には新千歳空港もあり、ニセコからの帰りに千歳で一泊するなどインバウンドが増加してきた。これから1、2年でこうした状況も変化していくのではないかと。

(委員)

- ・新型コロナウイルスの影響で街中には人がいなくなっている。
- ・千歳市の商業の今後について考えたときに、千歳市は若い人が多いので SNS を利用してインターネットユーザーの目につくようなきっかけをつくったり、魅力を発信したりして人を呼び込むことを考えると良いのではないか。

(委員)

- ・ニセコを訪れるインバウンドが千歳に宿泊することが増え、千歳の宿泊施設も増えた。
- ・地の利の良さが魅力となっており観光客の利用が増えている。
- ・この観光客がまちなかにどの程度回遊しているのかを調査し、滞在時間を増やすような仕掛けを検討すると良い。
- ・千歳市内には飲食店、衣料品販売、マンション、駐車場という建物があり、観光という視点では、どのようにしてこれらの施設と結びつけると良いのか検討することが必要である。
- ・飲食店ではまち歩きのシーンなどが思い浮かび、このようなアプローチで飲食店では観光客を呼び込める。
- ・宿泊と周辺の店とのつながりづくりなどを検討することが必要。

(委員)

- ・今、千歳では若い人が一番集まっているのが千歳タウンプラザであり、来訪者の 8 割は学生（高校生・大学生・専門学生等）である。
- ・イベントを行いたいという市民が多い。
- ・学生なので、千歳にお金を落とす行動が多くはないが、意欲的に活動する学生が多い。

(委員)

- ・先日、テレビ番組で千歳の商店街がとりあげられていたが、地元民が知らないようなお店も紹介されており、魅力を再発見することができた。
- ・まだ発見できてない多くの魅力があると考えられる。このようなテレビ番組などを情報発信のツールとして活用できるといい。

(委員)

- ・千歳は若い人が多い。若い人はお金を落とさないが、発信力があるので、そういった強みを活かして、活性化につなげることも考えていくと良い。

(会長)

- ・千歳市の観光スポットやグルメなどの情報で、簡単に人々がつぶやける情報発信の仕組みができるといい。

(委員)

- ・他のまちの成功事例を教えてほしい。

(事務局)

- ・網走市などは、空き店舗が増えており、まちづくり会社を立ち上げ、朝市やビアガーデン、インバウンド向けのイベントを行なっている。
- ・イベントで集客ができて、その利用客が商店の利用に直接はつながっていない課題もある。
- ・千歳市は商業でも観光でもコンテンツに恵まれているので可能性を感じる。

(委員)

- ・現在、人々の行動様式を見てみると車で大型店舗に買い物に行くというところが見られる。
- ・この観点から見ると、まちの顔イコールまちの中心部という考え方も、時代による変化があっても良いと思うし、まちの顔が一つと限らなくて良いのではないかと。

(事務局)

- ・千歳市の最上位計画の総合計画で考えると、まちの顔である中心市街地を、JR 千歳駅を中心とした半径 1 km以内と想定しており、この地域が潤わないと、住民の活性化につながらないと考えている。
- ・中心市街地にこだわるのではなく、市域という広い考えを持つことが必要である。
- ・中心市街地の活性化がないと商業が発展しない。

(会長)

- ・千歳市内の伝統的な施設や地域を利用して中心地の活性化を検討する必要がある。

(6) 今後の懇話会の進め方について

- ・事務局より説明

(7) 商業に関する市民アンケートの実施について

- ・事務局より説明
- ・本日現在の回収は、アンケートでの返送は 310、オンラインでの回答 60 である。

(8) その他

- ・次回は 8 月 26 日 (水) 14 時より開催。
- ・プランの骨子と現プランの進捗報告。
- ・今後の詳細スケジュールも提示する。

## 4 閉 会